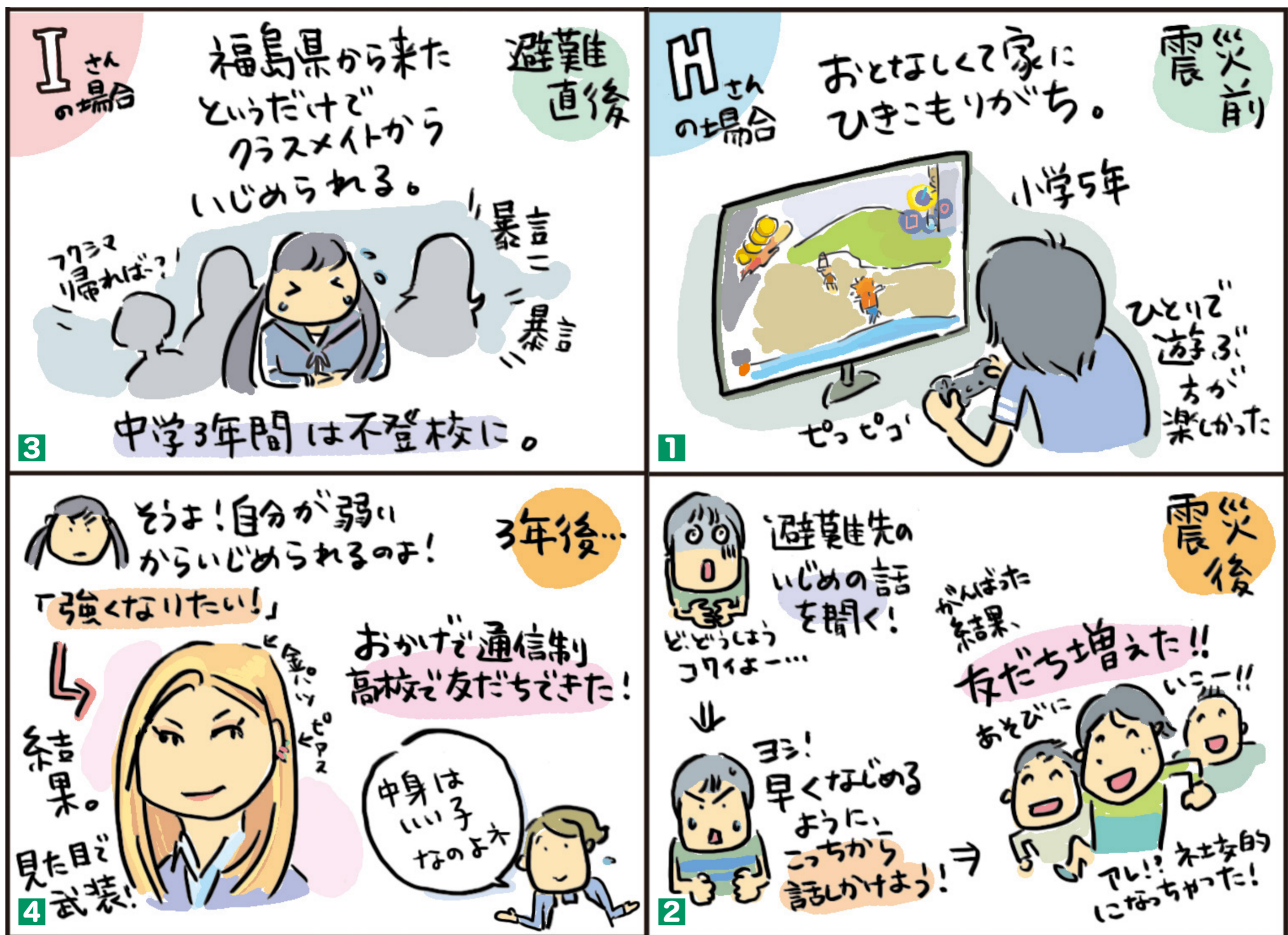


性格が変わった!?



避難先での子どもたちの順応性

東海地域に来た当初は、方言や文化、気候の違いに戸惑ったという声は多く、言葉のニュアンスの違いで新しい友だちとトラブルになったこともありました。親も大変な状況であるため、避難先での不安やトラブルを口にできなかったりして、本人も気付かないうちに大きなストレスを抱えました。一方で、大人よりも柔軟性が高いため、早くに馴染むことができ、あまり大変ではなかったという声もあります。

子ども・若者の声

- 名古屋の方言がすごくきつく感じて怖かった。気性も違ったので慣れなくて、学校の友だちにも心が開けなかった。お母さんも避難生活で精神的にもかなり辛い状態で、悩みを言うことはできず、気丈に振る舞うしかなかった。
(福島県白河市:当時中学1年生)
- 周りには「大丈夫」と言っていたけど、すごいストレスだったかもしれない。ニキビができたり、暴飲暴食や噛み癖がでる頻度が増えたりしていた。親は仕事探して大変だった思うし、心配をさせたくなかった。本当に自分では大丈夫と思っていたので、ストレスに気づけなかった。
(福島県いわき市:当時小学6年生)
- おとなしい性格で三重の生活に慣れるのに時間がかかり、福島が恋しくて夢にもでてくるくらいだった。
(福島県郡山市:当時小学5年生)

311県外避難者について考えよう